

燻り

岩花陸

破綻から始まる物語

絵のない絵本、命のエラッタ

プロローグは読み飛ばした

そのくせに

玩具を片付けるのが嫌いで

思い出とお別れが出来なくて

くすんだフィルムが積み重なる

全ては予定調和

病名は付かなかった

ヴォイニツチの楽譜で奏でる

あの旋律で絞め殺して

花になって散りたいの

徒花がいい

墓標に供えられる、実のない花が

それだけで良かったのに

終止符を夢見たはずが

延命治療は成功

ゾンビの誕生祭

負け戦がお上手なようで

矢印は苦手

十字架にはなれない

どこにも行けずに転がり続けて

下流の石になった

欠けて失くした

色も味も

万華鏡は硝子の屑に

使い終わったペレットみたいで

絵の具はあまり美味しくない

不意に落ちた雷で泥になつて

毒虫になれたら本望だ

有益な不快害虫に

陽の光を避けて行く道

ある日差した汚い虹

空に境界線が引かれた

名付けられない故の孤独と

蛹のままで眠るよすがに

カーテンが開け放たれる

まだ成りたくはなかった

選択肢など要らなかったのに

知らぬが仏を知らぬ愚かよ

ならばいっそ

シャボン玉にでもなればいいのだ

幼稚園児の小指のように

いずれ錆び付く絵空

七千三百と少しの言い訳

小鳥の囀りに返す言葉もない

鏡を叩き割る勇気さえ

埃に埋めたタイムカプセルの中

解答欄は空白のまま伏せり

継ぎ接いだ夢に蓋をして

花の中眠りたい
それだけ